



星の郷総合教室

No. 224

平成31年2月25日発行

電話072-895-6230

月	日	曜日	予定
2	25	月	
	26	火	
	27	水	
	28	木	授業料引き落とし
3	1	金	
	2	土	暗算検定(通常授業あります)特別練習
	3	日	西日本大会
	4	月	
	5	火	
	6	水	
	7	木	
	8	金	授業料引き落とし予備日 暗算検定成績発表
	9	土	特別練習
	10	日	大阪珠算協会生徒表彰式典
	11	月	能力検定証書発行日
	12	火	
	13	水	
	14	木	
	15	金	
	16	土	全日本ユース大会申込締切
	17	日	
18	月		
19	火	暗算検定証書発行日	
20	水		
21	木	春分の日 近畿大会 通常授業はありません	
22	金		
23	土	i-test 3月一斉実施 特別練習	
24	日		
25	月		
26	火		
27	水		
28	木	授業料引き落とし 段位証書発行日	
29	金		
30	土		
31	日		
4	1	月	春休み

春休みのお知らせ

春休みは4月1日(月)と、講習会のために休講となる4月20日(土)の2日間となります。短めなのはゴールデンウィークがあることと夏休みを通常より少し長めに設定する予定になっているからです。

3月2日暗算検定について

午前10時30分開始、11時終了予定です。2日の受験が無理な受験生は、2月28日、3月1日の授業中に受験できますので申し出て下さい。2日(土)の通常授業はあります。

特別練習の予定と対象者

3月2日(土) 午後3時~5時

○西日本大会出場者のみ

午後5時~7時

○アドバンスト・チーム(A-team)

○西日本大会出場者

○近畿大会出場者

○ユース大会出場予定者

3月9日(土) 午後5時~7時

○アドバンスト・チーム(A-team)

○近畿大会出場者

○i-test受験申込(予定)者

○ユース大会出場予定者

3月23日(土) 午後5時~7時

○アドバンスト・チーム(A-team)

○ユース大会出場者

3月3日西日本大会

集合...星田駅8時25分

帰り...星田駅18時30分頃

会場...大阪商業大学(近鉄河内小阪)

昼食の準備をしておいてください。電車賃は中学生で往復1000円以内です。現地集合・現地解散もできます。

3月21日近畿大会

1月27日開催の近畿珠算競技大会大阪府代表選手選考会で、大阪代表24名中、14名が星の郷生でした。14名は3月21日、兵庫県尼崎市において開催される近畿珠算競技大会に出場します。

(中学生の部代表)

大内峻聖 金本愛夢 岩成桃 和泉初音

(小学5・6年生の部代表)

江口尊琉 山内美空 茅島悠斗 和泉琴音 森本一生

(小学4年生以下の部代表)

佐野幹太 下川原空良 高山優 下川原沙希
西畑美伶

3月i-test

3月i-testは3月23日の午前10時30分から実施します。23日に受験を希望する皆さんは22日までに申込を済ませておいてください。23日に受験できない場合は、30日までの授業時間中に受験できます。

全日本ユース珠算選手権大会

2019年度の表記大会が4月28日に京都市・京都パルスプラザ(京都府総合見本市会館)で開催されます。西日本大会出場者や現在ユース大会の練習を行っている生徒の皆さん、i-testの全種目3rd stage以上を練習していて、参加基準点を越えた皆さんは出場できます。申込締切は3月16日、参加料は3500円です。

新小5年以下の部門(アンダー10)、新小6年・新中1年部門(アンダー12)、新高1年以下の部門(アンダー15)とに分かれて総合競技が行われ、全国順位がつかます。問題は難しいですが、今から練習を重ねることで大幅な実力の向上が見込めます。

2月10日実施1～3級検定

【1級合格】(第238代～第245代)

久本和奏(再) 森本爽月 高津侑良 山城真里奈
外間彩乃 早野蓮 川崎柊花 林和花 松井一真
※久本和奏さんは満点合格を狙っての再挑戦でしたがおしくもかけ算1問題失点の295点でした。

【2級合格】 興田佳歩 瀧川航平

【3級合格】 高橋瞭斗 福山芽依 広部有梨
和泉絢音

1月i-test昇級・昇段者

2か月ごとに受験できるi-test。サイクルが他の試験に比べて短いだけに点数が上がったり下がったりを繰り返しますが、中長期的に点数を追っていくと緩やかな上りの傾向を示していきます。受験種目を決めた後、2週間ほど種目を絞って意識的に練習を繰り返すと昇級・昇段が近づきます。申込書は試験直前ではなく、なるべく早めに提出しましょう。

◎珠算総合

二段 井上寛大
準初段 川崎柊花
準2級 久堀力翔 青田裕哉
3級 中谷鍾唯 日高希愛
5級 岡本茉莉香 吉村健太郎

◎暗算総合

二段 井上寛大
初段 稲垣綜一郎 沼田輝
1級 沼田陽南乃
準1級 貝谷憲吾
3級 梶原進太
準3級 中谷鍾唯
4級 林蓮
5級 青田裕哉

7級 岡本茉莉香

◎かけ算

2級 大塚来遙
準2級 川崎大樹 土橋茱白
準3級 川下真依 岡本茉莉香 吉村健太郎
6級 角崎彩音
7級 大塚道梧 藤原純平 浜崎馴也
8級 中谷鍾誓
10級 佐野心春

◎わり算

準三段 井上寛大
3級 日高希愛
準3級 青田裕哉 中谷鍾唯
7級 吉村健太郎 大塚来遙
8級 岡本茉莉香

◎みとり算

準初段 川崎柊花
準1級 久堀力翔
2級 青田裕哉 辻翔太 日高希愛
3級 林蓮
準3級 伊丹滉稀
4級 大塚道梧 十河幸嶺 吉村健太郎
5級 市原瑞季 宮島悠輔 薄井徳寿 鈴木博久
6級 平岡大知 辻悠翔
7級 林真央 武藤慎治 加納颯真
9級 松浦大士

◎かけ暗算

準三段 井上寛大
1級 沼田陽南乃
3級 林蓮
5級 吉村健太郎
7級 岡本茉莉香 乾心春
8級 川下真依
9級 佃紫苑

◎わり暗算

準三段 沼田輝 井上寛大
初段 沼田陽南乃
準2級 中谷鍾唯
3級 梶原進太
準3級 青田裕哉
6級 岡本茉莉香 林蓮

◎みとり暗算

準二段 稲垣綜一郎
初段 井上寛大
準初段 沼田輝
1級 沼田陽南乃
2級 久堀力翔 貝谷憲吾
準3級 中谷鍾唯
4級 川崎大樹
5級 吉村健太郎 大塚来遙
6級 岡本茉莉香 藤本宗佑
7級 大塚道梧 角崎彩音 乾心春 伊丹滉稀
8級 浜崎馴也

出席時間20時間以上の生徒

(2月20日までの1ヶ月)

久本和奏70 脇野悠介69 森本一生63 深江萌黄60
西畑隆智54 西畑美伶54 山内美空53 川崎柊花52

下川原空良51 下川原沙希50 茅島陸斗49 和泉初音45 高橋暁斗45 奥田花44 井上心結44 稲垣綜一郎41 佐野幹太38 早野蓮38 藤江里奈38 佐野吟次朗37 相馬拓音37 沼田輝35 川崎大樹35 佐野心春34 沼田陽南乃33 立川拓弥33 永津敦之33 福原真央33 藤江茉莉33 福原健太32 土橋茉莉32 長小田花歩32 森本爽月32 木下俊大31 外間彩乃31 津崎潤人31 高津乃愛30 早野碧30 山川侑那30 山本大貴30 梶晴真29 高山優29 山本悠真28 渡邊紘生27 西井萌26 引波花莉音26 山川翔太郎26 茅島悠斗25 澤田一心25 瀧川航平25 和泉琴音24 和泉絢音24 市原瑞季24 清水知愛23 不破健太朗23 松井一真23 松浦大士23 林蓮22 興田佳歩22 泉脇勇汰22 金本愛夢22 高津侑良22 津隈瑛翔21 伊丹琉太20 平生絵理20 林真央20 宮根にこ20 伊丹滉稀19

(あと1時間だった皆さん) 貝谷憲吾 加納百々華 鈴木博久 高谷楓乃 西盛藍 広部有梨 森川颯仁

猛スピードばく進中

(初歩教材PERFECTを1ヶ月で20ページ以上進んだ生徒) 黒田蒼心57 池田統衣56 魚川美月35 牧心菜34 市原朱莉31 貝谷大騎27 利川麗26 田中希海25 秋穂香23 里村愛海23 江戸翔乃介20

フラッシュ暗算合格者

(2月20日までの1ヶ月間)

八段 井上心結 下川原沙希
七段 下川原沙希 久本和奏
六段 森本一生
五段 西井萌
四段 高谷楓乃
三段 高津侑良 外間彩乃
二段 高橋暁斗 中村結菜
初段 澤田一心
1級 中野佑美
2級 中谷鍾唯 立川拓弥
3級 土橋茉莉
4級 藤本宗佑 福原真央 辻奏音
5級 大塚来遙 大塚道梧 前澤咲来 中尾仁一 薄井徳寿 川下真依 山本大貴 藤本宗佑 福原真央

6級 瀧川侑輝 長小田花歩 森田大智 植村稜香 早野碧

7級 山本悠真 林真央 鈴木博久 瀧川侑輝 早野碧

8級 宮根にこ 山本悠真 林真央
9級 相馬拓音 市原瑞季 宮根にこ 林真央

10級 安藤健 西尾晃 松浦大士 大塚詠三 村松龍星 荻野桜佳 宮島悠輔 角崎琴音

※フラッシュ暗算は成績記録カードを提出した生徒だけが練習できます。カードは初歩教材PERFECTを終了した時点で渡しています。提出したからといって全員ができるとは限らず、練習の合間をぬって都合のついた人から順番に練習できます。カードを無くすと練習できませんから再発行を申し出て下さい。教室には忘れ物のカードもたくさんあります。

○以下はそろばんの先生方がご覧になる会報に掲載するつもりで書いた文章です。書き上げてみるとなぜか寄稿する気持ちを失ってしまいました。でも、そのままボツにするのももったいなくて、星の郷教室の紹介部分もあることから塾報に掲載することにします。

ある指導者から開塾の動機を聞いたことがある。

実子をとある珠算塾に通わせていた。子どもは、できないところがあっても先生が怖くて質問できない。勇気を振り絞って質問すると、自分でやれ、と言われて追い返される。できないままだとなおさら叱られることもわかっている子どもはどうすれば良いかわからない。ひたすら気配を消して、ただ時間が過ぎるのを待つ。

授業中は水を打ったように静かである。しかし、練習に集中しているわけではない。ただ、静かにするということが目的の静寂、恐怖が支配する静けさである。

それでもたまに先生が冗談を言うことがある。生徒たちは、冗談に反応して大声で「アハハハ」と笑うらしい。たまたま教室に子どもを迎えに行った母親はその光景を目にして、思った。「子どもが壊される」

わが子を辞めさせた母親が地元の商工会議所に住居近くの珠算塾の在処を尋ねた。が、適当なところがないことを知り、逆に会議所の担当者から、自身での開塾を勧められた。母親は有段者だったのだ。

これが開塾のいきさつである。

子どもはすることがなければ10秒間もじっと座ってられない生き物である。いや、子どもだけではない。大人だってそうである。面白くない授業参観など、教室に入らない保護者は廊下でしゃべっている。教室後ろで黙っている大人は、興味があって黙って聞いている人ばかりではない。退屈を我慢しているのである。大人だから我慢しなければならぬと知って我慢しているのである。

子どもが騒がしいのは、騒ぎたくて騒いでいるのではないのであって、騒ぐしかないから騒いでいると知らなければならぬ。10秒間何もすることがなければ、騒ぐか遊ぶかするしか自身のパワーのはけ口がないのである。

子どもの多くはすることがあればやるべきことをじっとやっている。

子どもはどこまでも伸びたいと思っている生き物である。そして保護者は誰しも子ども自身が希望する以上に子どもを伸ばしたいと思っているはずである。私たちは、そんな保護者の皆様から、子どもたちを預かっている。

これを肝に銘じると、授業中、「うるさい」「集中しろ」「やらないのなら帰れ」などという注意は、よほどのことがない限り言えない。よほどのことというのは、「他に言うべきことが見つからない」状態のことである。伸びたいという欲求の塊である子どもたちに、欲求を満たすだけの環境なり教材なり指導なりを届けることができな

かった心の叫びが、先の言葉でなければならぬ。「うるさい(状態に子どもたちをして追い詰めてしまった)」「集中しろ(と言わなければならないほど集中できない雰囲気にしてしまった)」「やらないのなら帰れ(といわなければならないほど、子どもたちにやるべきことをさせる力がなかった)」。こんなことしか子どもたちに言えなくて申し訳ないという気持ちの発露が先の言葉である。こんな言葉を発する前に、指導者はあらゆる手を打っておかなければならぬ。教材の研究、教室環境の改善、授業内容の吟味、発言の精査、座席の配置、掲示物の刷新など、自分の力でどうにかなるものから、社会情勢、国際環境など、自分一人だけの力ではどうにもならないものまで、ありとあらゆる物事を子どもたちの伸びにつなげられるように考えておく。それでも、時として考え及ばず「静かにしなさい」と声を上げることもあろう。が、それは子どもに対してではなく、万策尽きた指導者自身に対して向ける言葉でなければならない。

義務教育でもないそろばん教室には、通うことが義務感ではなく本来的には強烈に伸びたい欲求をもった生徒たちが来ている。そんな場所であるはずの教室で、指導者が先のような言葉を日常的に発しているとするならば、これは異常事態である。

ところで、学校やそろばん教室を卒業しても、子どもたちの勉学や人としての伸びがそこで終わるわけではなく、勉強は一生続く。そういった意味から、私は、そろばん教室はそろばんや暗算の計算方法を学んで技術を磨く場であると同時に、生徒たちが自分自身の伸びを感じ、伸び方を学ぶ場であると思っている。教育機関は子どもの心に灯る種火に火をつけ、息長く炎を燃やし続ける術を身につけさせる場所なのである。

検定試験や競技大会は、そのための有効な手段である。合否や勝ち負けといった、合格点や他者との比較のみにスポットを当てるのは、一部を見て全体を見ていないことになることを私たちは知っている。

合否にかかわらず、あるいは勝ち負けにかかわらずとも、試験や大会までの時間を「そのつもり」で過ごした人は、そのつもりで過ごさなかった人よりも確実に力を伸ばしている確率が高い。どの大会も勝者は一人であるはずなのに、あれほど多くの人たちが出場するのは、勝負に対する興味に勝るものがあるからである。シティマラソンに至っては、優勝を狙うような招待選手がスタートしてずいぶん経った頃でもまだスタートしていないランナーがひしめき合っているではないか。

彼らの目的が優勝でないのは明らかである。参加することで優勝者とは別の種類の勝利をそれぞれが得るのであろう。

私の教室には選手クラスは存在しない。選手養成の時間も無い。そもそも開塾当初から私にそういった概念が生まれたことがない。三十数年前、学習塾を開塾したおり、最初に入塾してきた数名のグループがいた。グループには中学3年生でか

け算九九を暗記しておらず、アルファベットを満足以書けない者がいた。一体この生徒をどうしようか考えると、本当に夜も寝られなくなった。ようやく眠っても夢に出てくるのだから逃げ場がない。知り合いの先生には「病院ではないのだからそこまで面倒を見る必要があるのか?」と言われもした。しかし、このグループの他に塾生がいないのだから、付き合うしかないと腹をくくった私は一切の先入観を持たないことにした。「中学3年生だからこれくらいはできるだろう」という希望にも似た思いを捨て、かけ算の九九を知らないものとして授業を進め、たまに生徒の口から正しい九九が出てこようものならラッキーだと思うようにした。「中学3年生になるまで九九を完全に覚えずに学校生活を送ってきたサバイバルな日々」について真剣に話し合ったこともある。

この生徒。1年間で数学の定期テストが4点から70点に上がった。下がりようがないのもあったが、それよりも何よりも保護者の協力があっての快挙であったことは確かである。

まず授業で生徒に教材を2人分渡す。1人分は生徒が授業で使う。もう一人分は家で待つ母親の分である。強制的に復習させるために、教室で2時間学んだものを、その生徒が帰宅して、生徒が指導者となって母親に同じことを教えるようにさせるためのものである。

人は、誰かの役に立つことで自分の存在価値を最も意識することを私はこの親子から学ばせてもらった。そして同時に、どんな人間でも勝者になれることも学んだ。ただし、それにはスタートラインに立たなければならないという条件がある。スタートラインに立たなければ何も始まらないし、何も起きない。

思い出話はここまで。

再度記すが、星の郷教室には選手クラスは存在しない。選手養成の時間も無い。ただ検定を受けたり大会に出場する生徒と、そうでない生徒がいて、検定や大会の練習をするために時間を費やす生徒と3級までの基礎を学んだりi-testで実力を高めることに時間を費やす生徒がいる。

検定や大会のレベルに応じて、参加することで伸びを感じ取ることができる程度に達している生徒全員に申込書を渡していく。さまざまな事情がうまくいき、申込書を提出できた生徒と、そうでない生徒とが生まれる。ただ、それだけである。上手な生徒だけに大会案内をするわけではなく、合格しそうな生徒にだけ申込書を渡すわけでもない。i-testに至っては試験を実施する奇数月の月初から、加減の運珠を学んでいる途中の生徒をのぞく全員に申込書を渡している。

理由は、そろばん教室はたまたま巡り会った生徒たちがそれぞれに見合った伸びを体験し、その体験を血肉としてさらに伸びていく術を身につける場であるからに他ならないからである。

入会したら、生徒は即、選手、アスリート。私が授業中、時として生徒のことを「○○選手」と呼ぶのはその証である。